

三留野宿本陣跡

天皇も滞在した本陣

三留野宿では、この地の有力な 3 家族が指導的な役割を担っていました。鮎沢家は、この跡地にあった大名、公家や幕府の役人のための本陣を勤めていました。宮川家は、道路を挟んだ斜め向かいの脇本陣を勤めており、勝野家は、人力を提供し、荷物や商品の配送の手配を手掛けていました。

三留野宿は、1881 年 7 月 10 日の大火に飲み込まれ、この大火で本陣を含む 74 軒の家屋と 8 軒の倉庫が焼失しました。この大火の前の三留野宿には、由緒深い歴史がありました。1880 年には明治天皇がここに一泊し、最後から 2 番目の将軍、徳川家茂の妻、皇女和宮も 1861 年にここで宿泊しました。

当初の建物の中で現存しているものはなにもありませんが、この庭の枝垂れ梅の古木は未だに完全な状態で残っています。明治天皇がこの地を訪れたときに飲まれた水は、今では復元されている脇道の遙か先にある井戸から引いたものでした。現在この敷地には町役場の倉庫が建っています。